

平成30年度



白川小だより

第4号

平成30年6月28日(木)

見守り いつも ありがとうございます ～白川口方面バス通学に～

校長 奥村 哲也

6月7日から、白川口方面の通学が徒歩からバスに変わりました。

小原・両神地区徒歩通学最終日の6月6日、私も新白川橋まで迎えに出ました。あいにくの雨でしたが、7時35分頃、子どもたちの「おはようございまーす」という元気の良い声が聞こえてき



ました。子どもたちの列の先頭には見守り隊の島崎茂慈さんが、最後尾には鈴木章さんがついて一緒に歩いてきてくださり、橋のたもとでは、新田辰郎さんと渡邊庄造さんが子どもたちの横断を見守ってくださいました。そして、校門前で渡邊恒雄さんと古田益男さんが声をかけてくださる中、7時50分頃、学校に到着しました。多くの方に見守っていただき、ありがとうございました。

徒歩通学15人、バス通学33人となった現在も、毎日の登下校において多くの方々に見守っていただいています。バス停や分団集合場所で見守ってくださる保護者や地域の方々、横断歩道に立って見守ってくださる交通安全協会や老人会の方々、一緒に歩いてくださる青少年育成町民会議や見守り隊の方々…皆様のお力添えに改めて感謝申し上げます。

ところで、最近、痛ましい事故や事件が続いています。6月18日朝、震度6弱の地震によって大阪の小学4年児童がブロック塀の下敷きになる事故が発生しました。翌19日夕には、静岡県で下校途中の小学4年児童が不審者に切りつけられて重傷を負いました。また、5月に新潟県で小学2年児童が連れ去られた悲しい事件は、まだ記憶に新しいところです。

「事故や事件は、いつでも、どこでも起こりうる」ということをいつも念頭に置いておかななくてはなりません。道路への飛び出し、梅雨による大雨、夏の川遊び…心配をすればきりはありませんが、できる限りの未然防止に努めたいと思います。学校では、安全教育、防災教育にさらに力を入れて参ります。地域の皆様には、見守りへのよりいっそうのお力添えをお願いします。地点、地点に立っていただく「点での見守り」、一緒に歩いていただく「線での見守り」、家の庭や畑から声をかけていただく「面での見守り」…。未来ある子どもたちのために、今後ともご協力をお願いします。